

- ✓ MOTOEプロジェクト開始
- ✓ 新サービス
WebAR スマホでデモ機
- ✓ 作業療法士からみた住宅改修
- ✓ 建築物のあれこれ古株指南

たよレールシリーズ

MOTOE

モトエプロジェクト

地球に優しい福祉用具の サーキュラーエコノミー。

モトエプロジェクトは、サーキュラーエコノミーモデルを構築する取り組みです。マツ六はたよレールシリーズのリペアサービスをはじめとして、再生可能な製品開発を通じて廃棄物を削減しています。



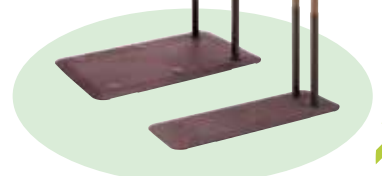
モトエプロジェクト 第1弾

として
たよレールSOTOEベースプレートの
リペアサービスを開始します。

サービス対象品 たよレールSOTOEベースプレート BZK-01・02用(標準型)
たよレールSOTOEベースプレート BZK-03・04用(スリム型)

詳細は当社営業担当までお問合せください。

たよレールシリーズ
SOTOE
たよレールソトエ



新サービスが始まりました！

アプリも登録も不要！

MazROC WebAR

スマホ デモ機



手すりを **実物大で**

バーチャル 配置！

さっそくARで
手すりを置いてみる▶▶



例えばこんなとき

重いデモ機を持って行かなくても、手にデモ機がない時でも、設置・施工のイメージやサイズの確認ができます。

住宅改修

もたれて使う手すりは、 健側側それとも患側側に設置する？

社会・生活環境研究所
作業療法士
二級建築士

山田 隆人



令和4年度版高齢者白書では、65歳以上の方で介護が必要になった原因として、認知症に次いで、脳血管疾患(脳卒中)が挙げられています。それら脳血管疾患の方々が入院先の病院から退院に向けて、ご本人やご家族の要望は、「一人で排泄ができる」とされることが多くあります。

脳卒中等で片麻痺となった方々の排泄動作の自立に影響を与える要因として、発症時の健側下肢の筋力と患側下肢の運動機能と認知機能であることが報告されています。発症時における健側の筋力、患側の運動機能が低い場合や高次脳機能などの認知機能の障害が強いと排泄活動が自立できない事例があるとされています。

下肢の支持性が低い場合にもたれる手すりを使い、下衣を操作することが知られています。しかし、健側側(図1)・患側側(図2)にもたれる手すりを設置するとの資料がどちらも散見され、もたれる手すりの使用方法を明確にしていないものが多くありました。

脳血管疾患がある方を対象とした研究では、下肢の支持性が充分ではない場合に、もたれて使う手すりが利用できるとしています。患側に体重心が偏位



図1) 健側側の手すりを使用しての排泄動作



図2) 患側側の手すりを使用しての排泄動作

すると転倒の危険性が上がるとし、健側側に設置した縦手すりにもたれることで、動作時の体重心が健側側へ偏位する事例が多くなることを示しています。排泄動作において、健側側の下衣の膝部・腰部の引き上げの際に体重心が患側側へ偏位する事例が一定数存在し、体重心を健側側へ偏位した動作となるよう十分な練習機会の確保が必要であるとしていました。

患側側に設置した縦手すりでも下衣操作の効果を確認した研究では、手すりにもたれることによって、体重を支持する部分が増加し支持基底面が広がり、動的なバランスが安定化したとしています。

健側側の手すりの設置は、手すりを利用し立ち上がり、立位で下衣を操作する一連の動作の流れで行う場合が挙げられます。また、患側下肢に感覚障害等がある場合は健側側への設置を優先したいと思います。

患側側の手すりの設置は、立位での下衣操作が不安定な場合、物理的環境要因、心理的要因等によるものが挙げられます。

手すりの設置後には、安全に排泄できるよう動作練習の機会の確保をお忘れなく。

参考文献

- 1) 鴻真一郎, 井村由子, 山口直子, 藤井重吾: 脳卒中片麻痺患者における発症早期からのズボン上げ下ろし動作練習の経過, 作業療法 28(2), 167-177, 2009
- 2) 鴻真一郎, 生田宗博: 脳卒中片麻痺者が手すりを用いてズボンを上げ下げするための機能レベルと有効な手すりの位置の検討, 作業療法, 22(5), 452-462, 2003
- 3) 中村豪志, 川畑翔, 川野裕也, 萩原純一, 加茂智彦, 他: 手すりにもたれて下衣の上げ下げを行う動作の効果, 理学療法科学 31(2), 269-273, 2016

～建築金物のあれこれ～

古株指南

第11回

第10回の「古株指南」はマツロクプラス2024年2月号に掲載しています。マツ六Webサイト(<https://www.mazroc.co.jp/>)からもご覧いただけます。



必要は発明の母。

前回、5管丁番のドアを1度吊り込むとはずすのが厄介。という話をしておいた。

【2管丁番】は、ねじをはずさずにドアと枠を分けられる。【写真A】のようにドア側、枠側にそれぞれ1つの管(くだ)があり、必ずドア側の管が上にくる。枠側の管からは芯棒が出ていて、ドアを、90度以上開いた位置で抜き差しできる。欠点は【図A】のように、「左吊り用(L)」「右吊り用(R)」を用意しなければならないところで、メーカーは在庫管理が大変じゃ。

そこで登場するのが左右兼用の「旗丁番」【写真B】。2管丁番の仲間だが羽根が旗に見えるので旗丁番が通称名になっている。ポイントはねじ穴の皿グリを両面にしていること【写真C】。これで左右どちらでも付けられる。※全ての旗丁番が左右兼用ではない。更に写真の商品は同一巻といって上下の羽根が同じ形【写真D】だからメーカーには金型の付替えが不要で効率がいい。

まあ、だからといって丁番が正確に取付けられるようになるわけではなく、また現場のドア枠を取付ける開口部の寸法精度も、取付けてみないとわからない。常に事件は現場で起きるのじゃ。

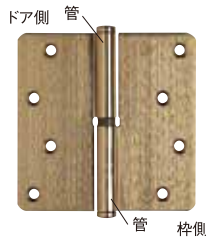
そこで現場で微調整ができる、2管丁番をベースにした「調整丁番」【写真E】が登場した。

出回り始めた時は2次元調整だったが、のちに3次元調整ができるものが発売された。①上下調整②左右調整③前後調整【写真F】。

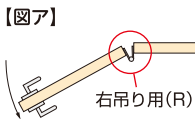
まさしく必要は発明の母じゃ。

2管丁番・旗丁番・調整丁番の特長

2管丁番



【写真A】



【図A】

特長

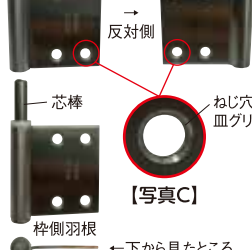
ねじをはずさずにドア側と枠側を分けられる。

旗丁番



【写真B】

【写真D】



特長

2管丁番の仲間だが羽根が旗に見える。ねじ穴の皿グリが両面にある。

調整丁番



【写真E】

【写真F】



特長

2管丁番をベースにしており、現場での微調整ができる。

